

# ヨシキリザメ 全水域

## Blue Shark, *Prionace glauca*

### 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)、みなみまぐろ保存委員会 (CCSBT)、全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)、インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)、中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

### 最近一年間の動き

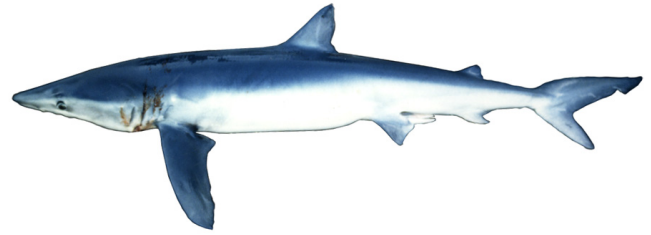
大西洋におけるヨシキリザメ資源について ICCAT でレビューが行なわれたが、MSY を生じさせる資源水準を上回るという推定は特に変わり無かった。2007 年にアオザメと共に資源解析のためのデータ準備会合が開かれる予定となった。

### 生物学的特性

- 寿命: 20 歳以上
- 成熟開始年齢: 5~6 歳
- 繁殖期・繁殖場: 初夏、北緯 30~40°の海域
- 索餌場: 温帯・熱帯域
- 食性: 魚類、頭足類
- 捕食者: 幼魚は大型さめ類や海産哺乳類、成魚は調査中

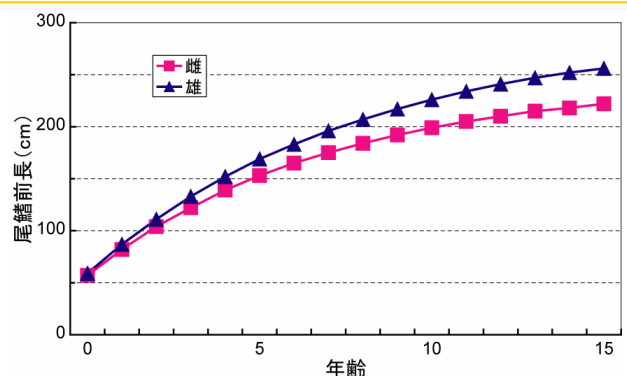
### 漁獲の動向

我が国の主要漁港へのまぐろはえ縄漁業等によるさめ類の種別水揚量の調査から、本種のはえ縄漁業による水揚量は、1992~2005 年において 9,900~15,000 トンで、近年はやや増加の傾向で、さめ類の合計値の 74~82%であった。



### 利用・用途

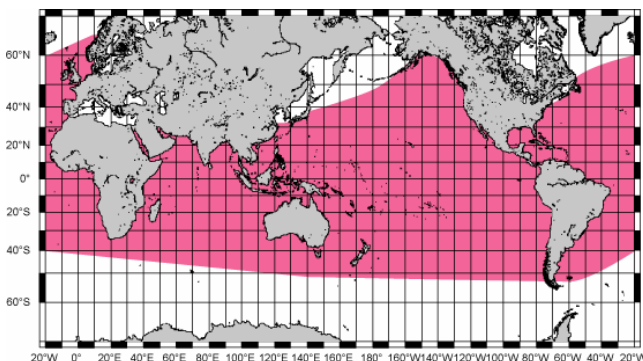
肉はすり身など、鰭はふかひれ、皮は工芸品や医薬・食品原料、脊椎骨は医薬・食品原料



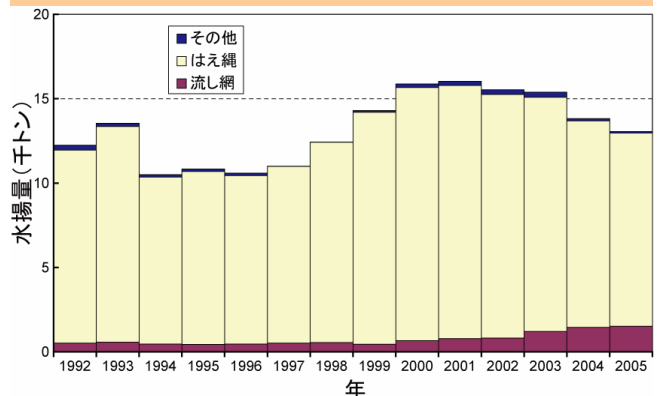
北太平洋におけるヨシキリザメの成長曲線 (中野 1994)

### 漁業の特徴

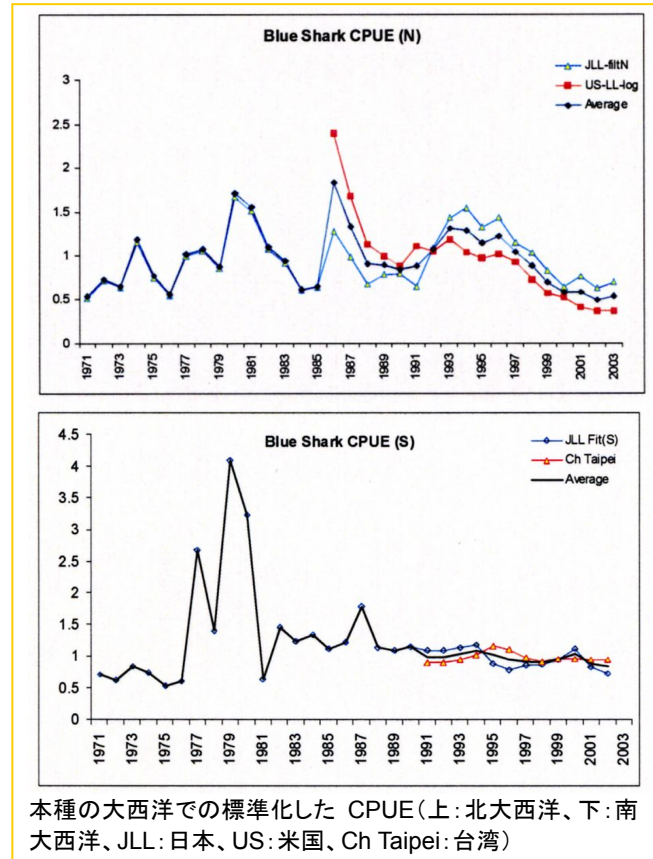
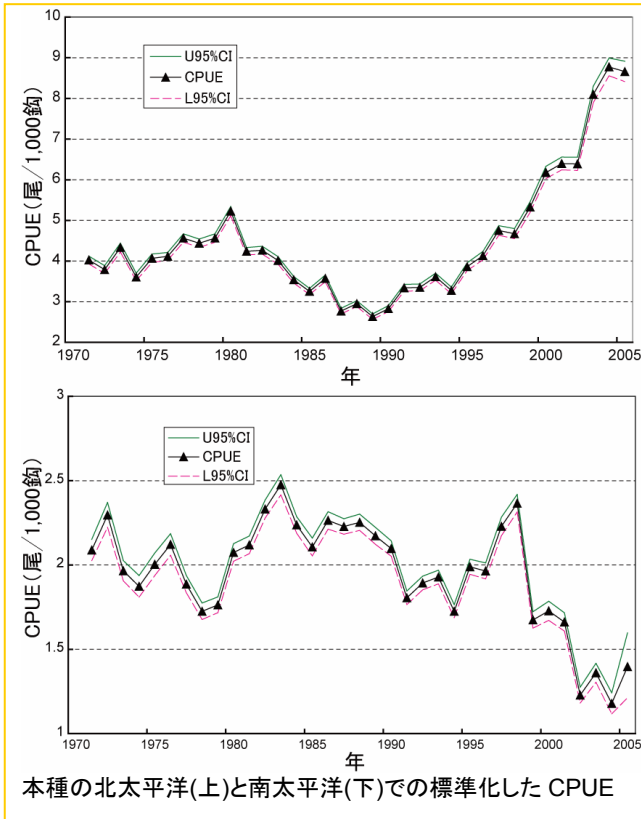
本種は全世界の熱帯から温帯にかけて出現し、外洋性さめ類の中で最も資源豊度が高いと考えられ、まぐろはえ縄漁業で多数が混獲される。しかし、主要な漁業対象種ではなく、商品価値が比較的高い沿岸や三陸沖の漁場を除き、遠洋水域で混獲された本種は漁場近くの外国の港で水揚されるか投棄・放流されている。我が国では宮城県の気仙沼港を中心に水揚が行われ、肉、鰭、脊椎骨、皮が食用や工芸用に利用されている。



ヨシキリザメの分布 (Compagno 1984)



日本の主要漁港へのヨシキリザメ水揚量



**管理方策**

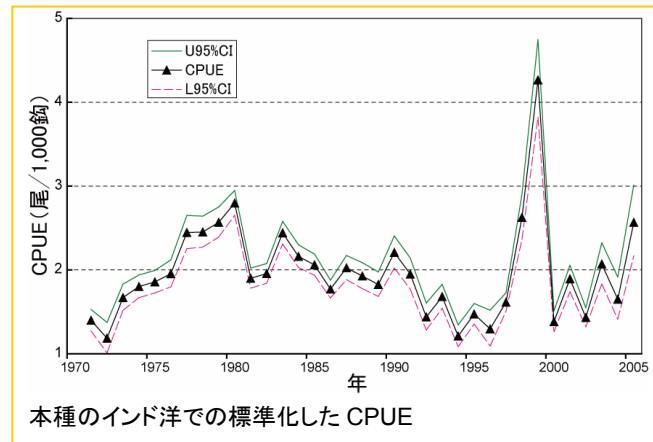
資源状態に顕著な変化は観察されず、保護・管理に対する特別な勧告は必要がない。ただし、資源状態を引き続き観察していく必要がある。資源評価に必要な種別漁獲量の統計資料がないため、今後は資料収集方法の改善も含めた検討の必要がある。

**資源状態**

Kleiber et al. (2001) の推定から、北太平洋の資源水準は高位と考えられるが、他の系群では不明である。また、最近 30 年間の CPUE に顕著な増減傾向は見られず、何れの系群においても長期的な資源動向は横ばいと推測されるが、南北太平洋における近年の動向には注意が必要であろう。

**資源管理方策まとめ**

- 保護・管理に対する特別な勧告は必要がない
- 資源状態を引き続き観察していく必要がある



**資源評価まとめ**

- 資源評価は CPUE の経年変化を一般化線形法 (GLM) で標準化して求めた
- 長期的には資源は横ばい

**ヨシキリザメの資源の現況(要約表)**

	北太平洋	南太平洋	北大西洋	南大西洋	インド洋
資源水準	高位	調査中	調査中	調査中	調査中
資源動向	増加	減少	横ばい	横ばい	横ばい
世界の漁獲量	調査中	調査中	調査中	調査中	調査中
我が国の漁獲量 (最近 5 年)	1.3~1.6 万トン(水揚げ量) 平均: 1.5 万トン	調査中	調査中	調査中	調査中